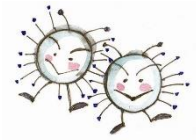
＜備蓄用ダンボールコンポスト　試作品でアピール＞



＜川崎市＞／＜環境を考え行動する会＞

＜天野、阿部、村山、由良、麻場、門平＞

■【活動概要】

私たちの子どもや孫の世代に少しでもよい環境を残すため、できることから行動しようと、2007年 8 月に発足した会です。翌年循生研に出会い、循生研方式のダンボールコンポスト普及活動に邁進してきました。11 年を経過して実践者が 2200 名を超えました。

■【さまざまな講座やイベント出展】

今年も町内会や生活クラブ生協、大地を守る会、花壇グループなどから講座依頼がありました。新しくPTA(成人学級)や子供文化センター子育て講座の若いママたちが受講しました。一方恒例だった麻生区夏休み親子講座は終了となりました。

イベントでは恒例の3R講演会や麻生区子育てフェスタや明治大学黒川農場収穫祭、中原区公園愛護会連絡会、新しく「環境フェア」「緑化フェア」「たぬきフェスティバル」などに出展しました。

備蓄用キット試作品

また、災害ごみのうち生ごみを分別すれば、衛生面でも有効と、備蓄用ダンボールコンポストを試作し、麻生区防災訓練の際にアピールしました。将来、防災グッズの仲間入りも夢ではないかと！

メール通信も第 75 号となり、登録実践者の半数 1100 名に発信しました。

■【NHK出版「やさいの時間」への掲載協力】

元明治大学黒川農場特任教授の藤原俊六郎氏の協力で「生ごみ堆肥を使った菜園講座」を、福祉施設・はぐるま農園の圃場を借りて、昨年に引き続き行いました。

ダンボールコンポストでの堆肥はもとより、上置きコンポストでのぼかし肥や木枠での雑草堆肥など土作りから収穫まで体験しました。

生ごみ堆肥を使った菜園講座Ⅲ

NHK出版の「やさいの時間」に藤原先生が「畑の菌活」を 1 年間連載中で、12・1 月号ではダンボールコンポストが 8 頁にわたり特集され、編集協力しました。

■【小学校での取り組み】

今年は2校が堆肥化にチャレンジしました。初めての西梶ヶ谷小 4 年生 109 人が 6 月から、4 年目の高津小 5 年生は選択した 42 人が 10 月から 1 か月半、地域のサポーターと川崎市環境局の支援で取り組みました。未経験の担当教員との連携が課題です。

■【川崎市環境局との連携】

川崎市内の講座やイベントでは川崎市生ごみリサイクルリーダー派遣制度を活用しました。

川崎市と市民団体との実行委員会形式で行われる「生ごみリサイクル交流会」は 11 月に8回目の開催となり、今年は 1 部が前述の藤原先生の基調講演、2 部はグループに分かれての意見交換、1 か月後の菜園講座圃場見学という初めての構成でした。2 部は参加者の横のつながりを深める機会となり、見学では見事に育った野菜で生ごみ堆肥の威力を目の当たりにしました。

■【今後に向けて】

10 年の節目を過ぎ、終わるイベントや講座もあり、始まるものもあります。広報にしても H.P.更新がやっとの状況。気候変動、政治不安等課題も多い中、私たちはできることを地道に積み重ねていこうと確認しました。　　2020.1.10　記